

友人のイネスさんが、彼女の尊敬する作曲家 John Rutter (1945- ) の CD「グロリア」をイースターのお祝いに送っていただきました。ミサ曲のグロリアのあとは、讃美歌 (Anthem) の合唱曲が続きます。一つ一つの歌詞を味わいながら、喜びつつ聞き入っています。伝統的なグレゴリアンチャントや、ソフトで静かな曲、ダイナミックで躍動的な曲など、多岐に渡る響きの醍醐味を味わえます。



ミサ曲の次に、胸を突かれるような優しさに溢れる讃美歌が流れてきました。歌詞も素朴で簡素です。

④ 輝く、美しいすべてのもの 大小のすべての生き物

賢く、不思議なすべてのもの 主なる神がすべてを作られた  
花も小鳥も、山も川も、朝日夕日も、冬の風も夏の陽も。私たちが見て、なんて素晴らしいと言えるように目と口も下さった、と歌っています。作詞者はアイルランドの大主教の妻 C.F.Alexander (1818-95) です。彼女は聴覚障害者のための学校や女子の友愛協会を創立しました。そして約 400 もの讃美歌を作りました。彼女を記念して、聖コロンビア大聖堂にステンドグラスの窓(左)が作られています。日本の 1954 年版讃美歌には 2 曲収録されています。

この CD のタイトルは「グロリア(栄光)」ですから、すべての曲が神の栄光を賛美する曲です。

- ⑤「新しい歌を主に向かって歌え。」(詩編 96)では「口」で主の栄光を語り伝えよと歌います。
- ⑥「すべての民よ、手を打ち鳴らせ」(詩編 47)と湧き上がる喜びを「体」で表現しています。
- ⑦「結婚の賛歌」(詩編128)は主を畏れ、謙虚に働く夫、家庭を守る妻、食卓を囲む子らの和やかな日常を感謝して、賛美しています。のどかさ、穏やかさをフルートとギターが醸し出しています。
- ⑧「主はわが羊飼い」(詩編23)はオーボエの伴奏により、静かで牧歌的な情景が目浮かぶようです。23 編が好きだった友人にも聞かせてあげたかったと思うほど、憩いの水辺を感じさせられます。
- ⑩「光の創造主」は、神は見える光と見えない光を与えられた。見えない光とは預言者の言葉、詩編のメロディ、箴言の知恵の光であって、神を知らせ、示されると歌います。
- ⑪「起きよ、光をはなて」(イザヤ 60)では見よ、闇は地を覆い、暗黒が国々を包んでいる。しかし、あなたの上には主が輝き出て主の栄光があなたの上に現れると、悲惨な世界に住む私たちにイエス様が復活された！立ち上がれ！と励まします。聖書の言葉が、ふさわしい旋律と響きに乗って聞こえてきます。
- ⑫では詩編150に優る賛美はあろうか、角笛、琴、豎琴、太鼓、弦、笛、シンバルとあらゆる楽器を用いて主を賛美しようと歌います。この積極性、躍動感には日本人には不足しているでしょう。欧米では、礼拝でクワイヤが賛美する伝統は素晴らしい限りです。歌詞と曲想も見事にマッチしています。
- ⑭は歌詞が面白いのです。これだけ神が共にいてくださることを実感できれば嬉しいです。  
神は私の頭の中にいる。私が考えている時に /神は私の目の中にいる。私が見ている時に /神は私の口の中にいる。私が話している時に /神は私の心の中にいる。私が思っている時に /神様は私の端にいる。私が死ぬ時に
- ⑯「聖パトリックの祈り」は、キリストは私と共に、私の中に、私の背後に、私の前に、私の横に、私の上に、私の下におられて、勝利させ、慰め、守られる。静かな時も、危険な時も、私を愛する全ての人の心の中に、見知らぬ人や友人の口の中にも とキリストをいつも身近に覚えて賛美しています。キリスト教をアイルランドに伝えた人である聖パトリックをどれだけ愛していることでしょう。

イースターはよみがえり、イエス様の命の輝きを受け止める時です。「世の光」であるイエス様の光を受け、私たちもモーセのように顔を輝かせて、賛美したいと CD を聞きながら感じました。